



商工くろいし

編集発行:黒石商工会議所
〒036-0307
青森県黒石市市ノ町5-2
TEL 0172(52)4316
FAX 0172(53)3875
URL <http://www.k-cci.or.jp/>
E-mail kuroishi@k-cci.or.jp

村上会頭 年頭所感

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、心から新春をお祝い申し上げます。昨年は、最深積雪180cmと観測記録を更新する2年続きの豪雪でスタートし、台風18号では他市町村に比べ田畑等の被害が少ないとはいえ、冠水被害や土砂崩れ、道路一部陥没など市民にとって甚大な自然災害を受けた一年でありました。



黒石商工会議所 会頭 村上信吾

国内においては、尖閣諸島の領土問題など日中韓関係の悪化や電力エネルギー問題がマスメディアを賑わしました。経済面ではデフレ脱却に向けたアベノミクス効果により、自動車業界を中心とした製造業や非製造業等の業況好転もあり景気の裾野拡大の動きが見られ、個人消費においても4月の消費増税を前に住宅関連や電化製品の買い替えなど活発な動きがありました。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定、プロ野球では東北楽天が日本一に輝き、本市では、阿保六知秀氏が全国こけしコンクールで内閣総理大臣賞受賞など明るい話題がありました。

当地域の観光面では、小嵐山・中野のみじ山は効果的なライトアップによる幻想的な空間を醸し出し、紅葉観光スポットとして認知され、観光客は増加傾向となっています。また、新たな試みとして隣接する平川市と田舎館村と連携し、地域の観光スポットを繋ぐ滞在型広域観光ルートの開発に取り組んでいます。一方、商況面では都市部の商況好転の影響も見られず、依然として商況回復には至っていない状況が続いており、会員企業と商工会議所との連携強化の必要性を痛感しております。

こうした中、地域の商工会議所として“さくら祭り”や“黒石よさせ”“こみせまつり”など四季を通じた一連のイベントに参画し成功裏に進められたことは、行政のご支援はもとより市民の方々のご協力あってのことと厚く感謝申し上げます。

昨年11月の臨時議員総会において、新たに会頭に選任され重責を担うこととなりました。今年は、会員企業の経営安定のための雇用促進事業やマル経資金、消費税転嫁対策などの情報提供や経営改善に向けた相談業務を更に充実させていくこととしております。重点事業として「商店街の活性化」「会員事業所の経営安定」を掲げ、役職員一丸となって頑張っていく所存でありますので、ご理解・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

すとともに会員皆様方の健康と事業繁栄を祈念し挨拶いたします。

三村日商会頭 年頭所感

全国の絆で被災地の
早期復興を果たし、
日本再出発へ、
力強い一歩を



日本商工会議所 会頭 三村明夫

東北の皆さま、明けましておめでとうございます。

■「日本再出発の礎」を築く
私は、昨年11月の会頭就任時に「新たな日本再出発の礎を築く」とした所信を表明しました。新たな再出発を果たすため、「わが国の強みと潜在力の再認識とその発揮」、「民間の自助努力」、「成長につながる国際化」の3つの視点を踏まえた上で、「現場主義」と「双方主義」を基本行動として、商工会議所の運営に取り組んでまいります。

■民主導で「成長戦略」実行
さて、今年はデフレ脱却と経済再生の道筋を確実にするための正念場の年となります。デフレマインドから脱却し、自信を持って前向きな行動マインドに転換する、いわば「国のリセット」の年と言えます。

その成否を握るのは「成長戦略」であり、実行の主役は民間企業、特にその大宗を占める中小企業です。大企業を中心に業績の回復がみられますが、中小企業の景況感、依然としてまだら模様と言わざるを得ない状況です。わが国の成長を確実にものとするためには、日本経済の基盤を支える中小企業全体の底上げを実現する必要があります。

そのためには、まずはわれわれ自身が気概と自信を持ち、自助努力を重ねることが大事です。多くの中小企業は、独自のアイデアや創意工夫を持って、成長を図っています。知恵を絞って課題解決を図っている好事例は貴重な財産ですので、商工会議所が中心となって、広く横展開を図ってまいります。一方、自らの力だけではどうしても解決できない構造的な課題の解決策については、現場と丹念に対話を重ね政策提言にまとめ、政府等に積極的に発信してまいります。特に、4月の消費税率引き上げに関しては、中小企業の円滑な価格転嫁が進むよう、万全の対策を進めてまいります。

■「日本再出発」に向けた重点課題への取り組み
今年で東日本大震災から3年が経ち、私も会頭に就

任してすぐに被災地を訪問いたしました。被災企業が事業再開を果たし、徐々に復興への歩みが進んでいる様子を目の当たりにし、これも、東北の皆様のひたむきな努力と、何があっても諦めない意思の強さの表われであると感服しました。しかしながら、地域によっては依然として復興が進んでいないのも事実で、今年も全国514の商工会議所の皆様の力を結集して「遊休機械無償マッチング事業」、「販路回復事業」などの被災地支援を継続します。1日も早い本格復興に繋げるため全力を挙げていきましょう。

特に、福島再生については、国の強力なリーダーシップのもと、原発事故の早期収束を目指すとともに、適正な除染や避難している方々の生活再建、風評被害の根絶、汚染水問題の早期解決などを図る必要があります。復興への道筋が見えない中、地域の経済やコミュニティーを支えようと尽力しているわれわれの仲間を全面的に支援してまいります。

また、「エネルギー政策」、「経済連携協定の着実な推進と強い農林水産業の創出」の同時達成、「社会保障制度の再構築」などの重要課題に対しては、127万会員の力を結集して、積極的な政策提言を続けてまいります。

2020年のオリンピック・パラリンピック開催は、各地域においても自身の成長を実現できるチャンスです。地域活性化の中核的な担い手である商工会議所が主導して、観光資源や文化、歴史をうまく活用し、独創性にあふれる多くの取り組みを生み出し、地域の再生につなげていきましょう。

■「地域の発展」「日本の発展」のために
私たち商工会議所は、「会員企業の発展」、「地域の発展」、「日本の発展」の3つのミッションを持っています。そしてこの3つが同一方向を向いていることが極めて重要です。

私は、会頭に就任後すぐに、全国9ブロックの主要商工会議所を訪問してまいりました。

そこで地域や日本の発展のため、多大な努力を日々実践している現場を目の当たりにしました。大変力強く感じるとともに、こうした活動をより深化させていかなくてはならないという思いを新たにしました。地域における商工会議所のリーダーシップを発揮し、地域発の成長を強力に進めてまいりましょう。本年が、日本再出発に向けた力強い一歩を踏み出す年となりますよう、皆様の一層のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。



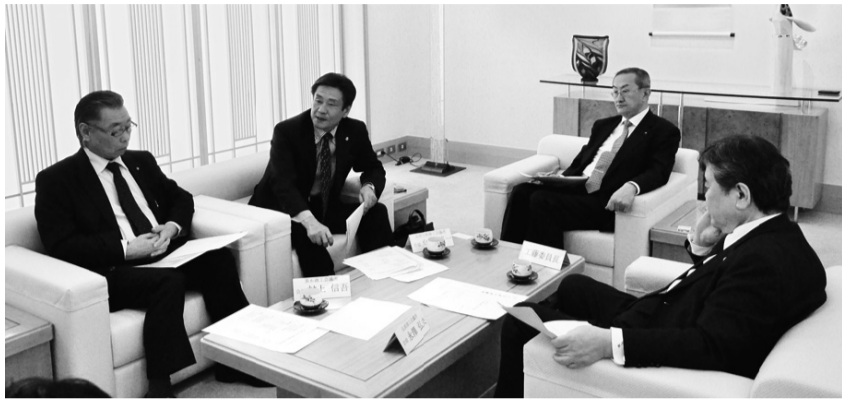
<http://www.jcci.or.jp/secret/>

謹んで新年のお慶びを申し上げます。 2014年正月 黒石商工会議所

佐須 扇 泉	小田 桐	溝部 慎	中村 公	三村 孝	盛内 志	伊藤 俊	長内 蔵	福士 正	中村 伸	館藤 光	佐藤 一郎	議員	佐藤 一郎	議員	三村 明夫	副会頭	村上 信吾	会頭	元黒石商工会議所専務理事 桜庭 司	元黒石商工会議所専務理事 佐藤 忠征	元黒石商工会議所専務理事 佐藤 哲郎	元黒石商工会議所専務理事 青森県立黒石商業高等学校 青森県立黒石高等学校	元黒石商工会議所専務理事 青森県立黒石商業高等学校	黒石公共職業安定所 (二)社黒石地区労働基準協会	前黒石商工会議所会頭 中山 肇	黒石商工会議所名譽会頭 村山 治	黒石商工会議所名譽会頭 横山 園吉	黒石商工会議所名譽会頭 村上 啓二	黒石市議会議長 高樋 憲	青森県議會議員 木村 太一郎	衆議院議員 鳴海 広道	顧問 黒石市長 黒石市議會議員 黒石市議會議員	議員	島田 充	阿保 一治	監事	阿保 一治	中村 保	三村 知	千田 孝	島田 充	阿保 一治	阿保 一治	阿保 一治
--------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	----	-------	----	-------	-----	-------	----	----------------------	-----------------------	-----------------------	--	------------------------------	-----------------------------	--------------------	---------------------	----------------------	----------------------	-----------------	-------------------	----------------	----------------------------------	----	------	-------	----	-------	------	------	------	------	-------	-------	-------

新春座談会

津軽三市商工会議所会頭に聞く



新春座談会出席者(敬称略)

- 〈ゲスト〉
 弘前商工会議所 会頭 永澤 弘夫
 【(株)永澤興業 代表取締役】
 五所川原商工会議所 会頭 山崎 淳一
 【五所川原街づくり(株) 代表取締役 副社長】
 黒石商工会議所 会頭 村上 信吾
 【(有)レストラン御幸 代表取締役】
- 〈企画・進行〉弘前商工会議所広報委員会
 委員長(司会) 工藤 武重
 副委員長 木村 和生
 委員 三上 貴生
 委員 阿保 秀樹
 委員 三浦 利史
 委員 小山 悟

【工藤委員長】(司会)

新年明けましておめでとうございます。
 本日は、「津軽三市商工会議所会頭に聞く」と題し、三市の商工会議所会頭をゲストにお招きして、津軽一円、また各市における展望など様々な事柄について大いに語っていただきたいと考えております。
 それでは、さっそくではございますが、三会頭に会頭就任にあたってどのようなことを思われたのか、また今後の展望についてお伺いしたいと思います。
 最初に二期目に入りました当商工会議所永澤会頭にご発言の口火を切っていただきたいと思っておりますので、よろしくお祈りいたします。

「3会頭の就任の抱負」

【永澤会頭】

私はこれまで、「地域を先導する商工会議所」を掲げ、4つの柱として、商工会議所法で定められている「建議活動の強化」、中心市街地の活性化に向けた「まちそだての推進」への取り組み、本来の商工会議所の目的である「中小企業支援の強化」と「組織・財政基盤の強化」について取り組んでまいりました。



ゲスト 永澤 弘夫氏

二期目も今までの4つの柱をさらに進化させてまいりたいと考えております。
 また観光面においては、葛西弘前市長が、平成26年度の北陸新幹線の開通により、秋田県北・岩手県北・角館・平泉・花巻を訪れる観光客が、金沢に流れ込んでしまうのではという危機感を持っておられますが、私も同感であります。
 翌平成27年度の北海道新幹線函館開業に向けては、そのような事が無いように、前期から取り組んできた函館商工会議所との交流事業を引き続き進めていきたいと考えており、函館とともに、お互いに観光客の誘致をはじめあらゆる産業について、「面」によるまちおこしに強く取り組んでまいりたいと考えております。

そして、それは函館と弘前という関係だけではなく、五所川原、黒石を含めた津軽地域全体で、取り組んでいきたいと考えております。
 さらに日本商工会議所の観光振興大会をきっかけに下関商工会議所とも交流を進めており、「下関ふく(河豚)を食べる会」の開催はじめ、「津軽の食と産業まつり」には、下関の名産品を出品していただくなど、人・モノの交流が広がっています。

まさに少子高齢化・過疎化のなかで、できることはなんでも行い、まちの活性化につなげたいと考えています。

【司会】

ありがとうございます。それでは五所川原商工会議所の新会頭山崎様をお願いいたします。

【山崎会頭】

実は私は11月の1日に就任しましたが、現在は25年度事業計画が進行中ということで、寺田前会頭の事業計画書の中で、「観光振興を起爆剤に商工業者と地域経済の振興発展のために、地域に愛される、行動する商工会議所をめざす」という方針のもとで、8つの主要な事業が策定されております。本年度については、これを大事に活動していくという展開になります。



ゲスト 山崎 淳一氏

そこで、今年より会頭に就任したということで、次年度以降大切にしていきたいと思っておりますことをお話しさせていただきます。

まず3つの視点を大事にしたいと思っております。それは「ビジョン」「戦略」「人づくり」の3つです。

まず、ビジョンについてですが、たくさんある商工会議所の責務の中、地域活性化への貢献と会員企業の支援が特に重要ではないかと考えています。

地域活性化実現のためには、五所川原の将来の街の姿をどのように想定し描くのかということ、私だけではなく、関わる人たちが明確にして、できれば共有していくということから始めたいと思っております。

そのビジョンが明確になった後、それを実現するための戦略を構築していきたい。今までの活動を継続することもあると思っておりますが、新規にいろいろなことを考えていきたいと思っております。

そして最も重要な事が、五所川原というまちを作った主要な人々と、今後時代を担っていく青年部等の若いメンバーの両方に接点を持つ私が、先輩たちの想いを後輩たちにつなげていく、バトンタッチの役割もあると強く感じています。

【司会】

ありがとうございます。それでは黒石商工会議所の村上会頭にもお願いいたします。

【村上会頭】

黒石商工会議所会頭の村上でございます。私は今回で二期目ということになりますが、一期目の時は前会頭が途中で辞任されたため、残任期間の1年間会頭を務めさせていただきました。



ゲスト 村上 信吾氏

二期目になって、今後は商工会議所がすべきことを模索しながら、1年間の経験を活かしていきたいと考えております。

黒石では、4万人以上あった人口が今現在は3万5千人ほどに減少しています。また、空き店舗もずいぶん増えてきています。

そのためにお客様の足が遠のくという悪循環になっているまちは黒石だけではないかと思いますが、商店街の活性化に向けて、商工会議所がすべきことを今期発見していきたいと思っております。

また、商工会議所の方針として、「会員の事業所の経営の安定」については、これまでも重点事業として掲げてきておりますが、今後も続けていかなければいけない事業だと思っております。

さらに会員の事業所が元気になるための経営指導も重要です。会員の減少が進むなかで、廃業に追い込まれないように指導をしていきたいと思っております。あるいは、会員事業所の経営安定に向けたセミナーや講習会を開催する事も、大切であると思っております。

また、「開かれた会議所」である事も、重点事業になっておりますので、会員への有意義な情報の発信、時代に要求された事業の展開を推進することに加えて、いつでも気軽に相談に来られるような体制づくりもしていかなければいけないと思っております。併せて、部会・委員会を積極的に開催して、今直面している諸問題を取り上げ、解決策を検討していくということも必要だと思っております。

中心商店街の活性化という観点では、シャッター通りの再生計画を今期の重点事業の1つに掲げていきたいと思っております。

様々な問題を抱えているなかではございますが、行政と一体になり、また県連合会・日商とも連携をとりながら進めていかなければいけないと思っております。

また、それに伴って観光振興のほうも進めていかなければならない。黒石には「黒石ねぶた」「黒石よされ」「こみせ

祭り」など様々なまつりやイベントが開催されているわけですが、年々集客が落ち込んでいる中で、中野もみじ山の「もみじまつり」は集客が増えているという結果が出ています。黒石にも、そういった魅力のある資源がたくさんあるわけですので、それを活かした観光振興を進めていきたいと思っております。

「地方都市の縮小経済について」

【司会】

近年、少子高齢化や労働力の流出など、地方経済は非常に深刻な打撃を受けておりますが、このことについて永澤会頭は、どのようにお考えですか。

【永澤会頭】

少子高齢化・過疎化は今日日本が一番悩んでいる問題だと思います。しかも、全国で平均的にではなく、地方都市では拍車をかけて進行すると思っております。

そうなってしまうと、何の産業も成り立たなくなってしまう。

少子高齢化への取り組みは本来、国政の問題だと思っておりますが、だからと言って地方都市として放っておいていい問題ではないと思っております。

地方都市に住む我々が積極的に果敢に取り組んでいかなければならないと思っております。

弘前では、「弘前交感劇場」という地域にあるもの全てを舞台装置と考え、まちの活性化に取り組んでいます。当所でもその一環で、特に若い人たちにに向けたイベントとして当時全国的に行われていた街コンの弘前版「ひろさき合コンリーグ」を実施しました。

合コンとして楽しむという方ももちろんおられますが、結婚相手を探そうと真剣に取り組んでおられる方もいて、2組のカップルから結婚したという報告がありました。

このような出会いの場を用意するというのも1つの当所の大きな仕事だと思っております。

さらに昨年、当所では、弘前大学と連携協定を結びました。弘前大学があるおかげで、弘前に若い方が定着しておりますし、少子高齢化問題についてゼミなどで取り組んでいただきたいと思っております。そして「産・学・官」に金融機関の「金」を加えた「産・学・官・金」によるオール弘前での取り組みを今後目指していきたいと思っております。

「前例がないから」「やったことがないから」という話はやめて、新しいことに果敢にチャレンジしようという姿勢が大事だと思っております。

【司会】

ありがとうございます。それでは山崎会頭をお願いいたします。

【山崎会頭】

今、永澤会頭からは、日本全体の課題についてのお話がありましたが、私は五所川原の立場からお話させていただきます。

現在、五所川原市では、小学生の数が、学校が成り立たなくなるのではというほどまで減少しており、地域の将来に不安を感じております。

その意味では、弘前さんは、学園都市であり、東北の中では仙台に次ぐ「住みたいまち」と言われているなど若い人が集まりやすい街だと感じております。五所川原にもその良い影響が波及してくればなと思っております。

商業の観点では、五所川原には、「五所川原商人」という言葉があります。昔日本海交易が盛んだった頃に、津軽平野の真ん中に位置するという立地の優位性から、五所川原が商人のまちとして栄えたという経緯があります。

実はこの立地の優位性は、今も変わらずにあります。これまでは、五所川原から各都市への流れだけだったのですが、道路が整備されることによって、逆の流れも生まれて来ています。これまでの西北五という商圏だけではなく、津軽という商圏の中で五所川原は成り立っています。

行政圏と異なり、商圏は消費者が「行きたい」と思うことで構築されます。五所川原では、これからも、わざわざ来ていただけるようなまちづくりや施設づくりを通して、魅力を作り上げる事が、これからの縮小経済に対する五所川原の対抗策ではないかと考えています。

【司会】

ありがとうございます。続きまして村上会頭をお願いします。

【村上会頭】

少子高齢化については、女性・男性共に今日結婚したくないと思っている人が多くなっているのではないのでしょうか。子どもを産みたくても育てられないから産まないという人も随分いるのではないのでしょうか。そういう意味では、働ける場所、安心して子どもを産める環境づくりというものが大切になってくると思っております。少子高齢化は、全国的な問題だと思っておりますので、できるだけ行政と商工会議所が一緒になって、そういう環境づくりを考えていくことが大事だと思っております。

また、定年後も継続雇用制度により65歳まで働ける環境になりましたが、たとえ私と同じ70歳になったとしても、まだまだ働ける年齢ではないかと思えます。一つの職場で20年30年仕事をしてきた人というのは、いろいろな技術的な面、知識の面で、入社した人よりも優れたものを持っているわけですから、それぞれの企業が、そういう宝物とも言える人材を大事にしていくことで、人材の流出を防ぐという事にも繋がっていくと思えます。

「中心市街地および地域の活性化について」

【司会】

地域経済が縮小傾向にあるのは、少子高齢化にその第一の要因があるようです。ここで、三市の中心市街地、中心商店街についてお伺いしたいと思います。

【永澤会頭】

私は、東京方面へ行くたびにその人の多さを羨ましく思っています。やはり、人が集まる場所でこそ商売が成り立っていくのではないかと思っています。

弘前は一時期、中心商店街である土手町で空き店舗が増加し、駅前の大規模商業施設も閉鎖してしまい、惨憺たる状況にありました。

このような中で、土手町では土手町コミュニティパークができ、隣接する駐車場でランチタイムに3時間の無料開放を行っています。その結果、無料の時間帯以降も駐車する人がいることから、逆に収入は増加しているそうです。

これほどに自動車での移動が多くなってきた今日では、駐車場の確保等、車で来やすい環境を用意することも大切だと思います。

また駅前地区でもヒロロの開店以降、飲食店を中心に賑わいを見せています。また、隣接する土手町と駅前・大町をつなぐ「えきどてプロムナード」で、マルシェ等のイベントを開催し人の賑わいを創出しています。

弘前市民の皆さんが「こうしては行かない」という危機感を持って動いていただいた結果だと思います。今後は、仕事が終わってから中心商店街を歩く人が増えてきているので、そういった人たちが街を巡れるようにはたらきかけていきたいと思っています。

商工会議所、商店街の方々、それに行政が、三位一体となって頑張っていかなければ、この難局を乗り切れないと思えます。少子高齢化も含めて、我々は地道に前向きに努力を続けていかなければならないという覚悟をしているところです。

【司会】

山崎会頭、市街地の賑わい創出について、いかがでしょうか。

【山崎会頭】



五所川原の場合は、中心商店街と呼ばれたエリアは、商業的には低迷しています。

これはやはり車社会が進化したということに伴って、消費者の買い物のスタイルが変わってしまったことが原因ではないかと思えます。消費者に合わせた商業集積の形がショッピングモールを中心としたものになってきています。

また後継者がほとんどいないという状況の中で、商売を継続できなくなったということもあって中心商店街とは呼べなくなっていると思えます。

ただ、五所川原駅前に限っては、中心商店街とは呼べなくとも、まだまだ中心街ではあり続ける可能性は高いのです。青森がコンパクトシティという名前を使っていますが、県内では五所川原が一番コンパクトシティだと私は思っています。駅から1キロ四方くらいのところに、まち機能が全部集約されているのです。

商業機能がエルムを中心としたエリアにシフトしているので、いわゆる中心商店街ではないけれど、中心街としての役割は十分果たしていけると思っています。

現在、五所川原では立佞武多の館周辺が中心街となっています。その周りに、来年7月に第2の集客施設として「まちなかパーク」の建設が予定されています。それに合わせてこれまでになかった地元FMの開局を進めています。

それから市では、西北五の中核病院として来年4月の開院を目指して「つがる総合病院」の建設を進めています。これによって医療・福祉の中心が中心街にできるということになります。その後、市庁舎の中心街への移転も計画されています。

医療や福祉、行政サービスなどが集約した中心街という形が段々はっきりとしてきています。そうなるるとそこに暮らす人に向けた商業施設などが必要になって来ます。この様な

流れで活性化を図っていくという図式が見えてきています。現在では行政がたいへん積極的な投資をしていますので、今後は商工会議所も一緒になってまちづくりをしていきたい。そうする事が中心市街地の活性化に繋がっていくものと思っています。

【司会】

はい、ありがとうございます。村上会頭いかがですか。

【村上会頭】

中心市街地活性化への取り組みとして、今から24年前に青年会議所20名で「こけしの会」を立ち上げ、まちづくりに取り組みました。

2000年にこの青年会議所と商工会議所青年部を中心にTMO「津軽こみせ(株)」が設立されました。現在、同社は法改正によりTMOとしての機能はなくなったものの、黒石市の指定管理者として、まちづくりの活動拠点「津軽こみせ駅」を運営し、重要な役割を担っています。

しかし、カネ長デパートやジャスコといったショッピングセンターもなくなり、唯一地元のデパートであった、大黒デパートも現在休業状態にあり、市内には大きなショッピングセンターが、ほとんどない状態です。この様な中で中心商店街をなんとか活性化していかなければなりません。

希望があるのは、観光名所となっている「こみせ通り」です。現在、料亭であった「旧金平成園(澤成園)」という庭園や銭湯であった「松の湯」の再生に着手しています。これらが完成すると、「金平成園」から「松の湯」の間にある「こみせ」を活かして、中心商店街の活性化に役立てるものができるのではないかと考えています。

さらには、空き店舗の活用についても計画していかなければいけないと思っています。



「北海道新幹線新函館開業について」

【司会】

ありがとうございます。それでは、話題を少し変えまして、北海道新幹線が平成27年度に開通する予定です。

これにより観光客が函館への往復で青森県にも、津軽に寄っていただけるようになると思いますが、開業に向けた展開についてお伺いしたいと思います。

【永澤会頭】

当所では、平成23年4月に函館商工会議所と「津軽海峡観光クラスター会議」を設立し、様々な交流事業やビジネスマッチングを展開してまいりました。その中で函館商工会議所松本会頭との個人的な信頼関係を築くとともに、副会頭や専務理事同士の交流等強い信頼関係を築いてきました。

実は、函館の方々から、北海道新幹線が開業したら函館から津軽へと観光客を誘導してほしいというありがたいお話をいただいています。そのための色々な方策をお互いに講じようと、「津軽海峡観光クラスター会議」に磨きをかけようと相互に連携をとっているところです。

その成果のひとつとして、交流事業では、平成24年度より「はこだてクリスマスファンタジー」に「ひろさきナイト」という日を設けていただいて、葛西市長をはじめ、数百人の弘前市民が函館に行き、金森赤レンガ倉庫で合同で実施しています。

また、ビジネスマッチングの成果として「ラグノオささき」さんが、オリジナル商品として赤レンガの倉庫をイメージしたお菓子「金森赤レンガ倉庫のキャラメルガトー」を開発、製造したり、当所の常議員であります「六花酒造」さんでは、道南の昔のお米を使った「ガスバリ2013」という函館銘柄の地酒を造ったりと会員同士の密接な関わりが始まっています。

今後はこの関係をもう少し進展させていきたいと思っています。

そして新幹線の開通後は、弘前単独ではなく、津軽一円での観光を考えたいと思っています。

【司会】

山崎会頭、太宰治の人気というのは廃れることがないのですが、旧金木町を中心とした奥津軽観光と函館とのジョイントについては、どうお考えでしょうか。

【山崎会頭】

結論を言うと、今永澤会頭がおっしゃったとおり、五所川原だけの魅力だと、わざわざおいでいただくものではないだろうと思っています。

確かに太宰治のファンは根強く、他にも立佞武多がありますが、立佞武多の館と太宰の斜陽館だけで観光として成立させるのは難しいと思えます。したがって青森、弘前、黒石も含めた連携というのが、これから大事になってくるのではないのでしょうか。

五所川原単独ではなく、津軽というイメージ戦略をもっともっと売り出していく必要があると思えます。

青森県人が考えている以上に、都会の人にとって津軽は魅力的な場所だと捉えられています。ただ受け入れ態勢ができていないというのが実情だと思います。

五所川原では、東京圏だけではなく名古屋等の中京圏に津軽の売り込みをかけています。

津軽をイメージ作りのキーワードに津軽というものが売り物になるような中身の充実を図ることが大切だと思っています。

【司会】

ありがとうございます。黒石のほうではB級グルメとして「つゆやきそば」を展開しておられますが、これらについていかがでしょうか。

【村上会頭】

先般、愛知県豊川市で行われたB1グランプリで黒石の「つゆやきそば」は10位入賞できませんでしたが、大きな成果をあげてきたと思っています。

また、ハワイのホノルルでも青森県のグルメとして、十和田の「バラ焼き」、八戸の「せんべい汁」、青森の「しょうがみそおでん」、黒石の「つゆやきそば」の4団体が青森フェアを開催して宣伝してきました。

今、「やきそばのまち黒石会」が活発に活動し、「つゆやきそば」を目当てに来る観光客の方もいらっしゃるようになりました。今後もっと研究開発することでB1グランプリのゴールドまで行けるのではないかと考えております。

新青森駅が開業したときも、黒石までのシャトルバスを駅の前に配置しましたが、思うような効果が得られませんでした。

北海道新幹線が開業した時には、函館から青森、そして弘前へ来てもらい、黒石は弘前と連携し、観光ルートを作っていければと思っています。その中には田舎館村の「田んぼアート」なども加えて、それを目的に来る観光客を黒石へ呼び込めるような仕掛けも考えられると思えます。

当会議所では、昨年隣接する田舎館村や平川市と連携し、「ナビチャリ」を活用した滞在型の広域観光可能性調査事業に取り組んでいます。今やメジャーとなっている「田んぼアート」、「盛美園」などを経由し、伝承工芸館へと向かうルートを創ろうという計画があります。

今後このような仕組みをもっと検討して、弘前や五所川原に來た観光客が弘南鉄道を使ってでも黒石の方に來られるような環境づくりを、一緒になってやっていければいいと思っています。

「今後の連携の可能性について」

【司会】

今、山崎会頭、村上会頭から三市の連携プレーについてのお話がありましたが、永澤会頭はどのようにお考えでしょうか。

【永澤会頭】

全くそのとおりだと思います。五所川原会頭の山崎さんも津軽という“面”で考えようというお話でした。まさに葛西市長も我々も全く同じ考えです。やはり津軽全体を回っていただければ、どこかに宿泊していただけると考えております。

例えば、黒石の「中野もみじ山」と「弘前城菊ともみじまつり」を組み合わせるツアーや弘前ねぶた、五所川原立佞武多を組み合わせたツアーなど、津軽地域を“面”として楽しんでもらえるような仕組みづくりが必要だと思います。そのために我々の連携が大切だと思います。

【司会】

「津軽三市商工会議所会頭に聞く」と題し、三会頭にお話を伺ってまいりました。

今年は、各商工会議所にとりまして更なる躍進の年となりますとともに、この座談会を機会に三商工会議所が共に手を取り合い、津軽一円の発展、活性化に向かう始まりとなればと思います。本日はありがとうございました。



今後の三市商工会議所の連携を確認!



女性会レポート! 「福島県復興応援視察研修」ほか活動報告。

<福島県復興応援視察研修>

去る平成25年12月6・7日の2日間、福島県の風評被害の払拭を目的として視察研修を実施しました。この視察研修への参加者は14名。福島県会津若松市を中心に、二本松市・郡山市熱海町・猪苗代町を訪問しました。そのなかで、郡山商工会議所女性会の片桐顧問を表敬訪問し、東日本大震災直後から現在に至るまでの動向について拝聴しました。周知のとおり福島県は震災直後からみると回復傾向にあるものの、いまなお放射能による風評被害を受けており、参加者からは、直接被害地域とともに引き続きこれらに対する支援活動が大切という意見が多くみられました。最後は片桐顧問を囲んで記念写真を撮影し、終始和やかに面談が行われました。



<2014年正月花フラワーアレンジ公開講座>

去る平成25年12月25日、黒石市産業会館4F 大会議室にて欧風花1級講師の大溝千秋さん(元町・Flowers)を講師に迎え、当女性会主催の『正月花フラワーア

レンジメント』の公開講座を実施しました。一般参加を含む26名が参加し、それぞれ素敵な作品が出来上がり、参加者の皆様から大変好評を得た講習会となりました。ご参加いただき、ありがとうございました。



<2014年女性会・新春会員大会>

平成26年1月14日、レストラン御幸にて当女性会の新春会員大会が開催され、37名が出席しました。記念講演として市議会議員の黒石ナナ子さんによる『元気円満な街づくり』と題した講演が行われ、懇親会には親会から村上会頭、新岡・工藤副会頭にご臨席頂き、終始賑やかな雰囲気、各会員が更に親睦を深めることが出来た楽しい新年会となりました。



<女性の力で子ども達へ明るい未来を!>

当女性会では、研修・交流・視察・社会福祉事業など、と一緒に活動して下さる女性の方を募集しております。起業まもない方や起業をご検討の方も大歓迎です。新たなネットワークづくりや学びの場としてご活用ください。体験入会も行っておりますのでお気軽にお問い合わせください。(年会費 5,000円)

●お問い合わせ 黒石商工会議所女性会事務局 小野智恵 TEL:52-4316

記事:女性会 盛純子

25年度黒石よされ収支決算(要約版)のご報告

去る平成25年11月25日、黒石よされ実行委員会(村上信吾実行委員長)通常総会において以下の25年度収支決算が承認されましたのでご報告します。

自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日

収入の部				(単位:円)
科目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	摘要
寄付金	8,000,000	7,684,000	△ 316,000	市内514件 市外126件
協賛金	500,000	392,126	△ 107,874	市内466件 市外4件 募金箱
補助金	9,150,000	9,150,000	0	黒石市より
広告収入	1,000,000	705,000	△ 295,000	組踊り大賞広告・うちわ広告
雑収入	100,000	82,584	△ 17,416	開会式祝儀他
繰越金	0	0	0	
合計	18,750,000	18,013,710	△ 736,290	

支出の部				(単位:円)
科目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	摘要
総務費	10,430,000	9,474,252	△ 955,748	開会式他
委員会費	5,750,000	5,236,860	△ 513,140	組踊り・廻り踊り・流し踊り他
組踊り委員会	3,600,000	3,283,497	△ 316,503	舞台設置費・会場費等
廻り踊り委員会	250,000	246,093	△ 3,907	リーダー・踊り子関係他
流し踊り委員会	1,550,000	1,402,070	△ 147,930	流し踊り表彰関係他
企画委員会	250,000	205,200	△ 44,800	イベント関係費他
交通・防犯委員会	100,000	100,000	0	黒石市交通指導隊へ
委託費	350,000	350,000	0	大川原火流し・よされ学校
寄付分担金	2,000,000	2,000,000	0	黒石青年会議所(黒石ねぶた祭り)
よされ特別引当金	100,000	868,598	768,598	本年度分
予備費	120,000	84,000	△ 36,000	
合計	18,750,000	18,013,710	△ 736,290	

LOBO調査[商工会議所早期景気観測調査]

業況D I は、大幅改善。先行きはコスト増で懸念を払拭できず

2013年12月 調査結果のポイント

◇12月の全産業合計の業況D I は、▲7.4と、前月から+5.4ポイントの大幅改善。91年8月(▲4.4)以来の水準となった。建設業の活況に加え、製造業でも、自動車関連の好調が幅広い業種に波及しつつあるほか、消費者のマインド好転や冬の賞与増に伴い、高価格帯商品への志向が強まるなど、受注・売上の増加を背景に、中小企業の景況感回復基調が続いている。他方、仕入や人件費、電力料金などのコスト負担が増す中で、価格転嫁の遅れや、生活必需品に対する消費者の根強い低価格志向により、業況改善が進まない企業もみられ、景気回復の実感はまだら模様となっている。

◇先行きについては、先行き見通しD I が▲11.0(今月比▲3.6ポイント)と、悪化が見込まれるものの、「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。建設業や自動車などの製造業によるけん引に加え、消費税引き上げ前の駆け込み需要から、回復基調が続くことを期待。他方、コスト増加分の価格転嫁が遅れている状況が続いているほか、消費税引き上げを見据えて消費を手控える動きが予想されるなど、先行きへの懸念も伺える。

D I 値(景況判断指数)について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向きを表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを目指す。

※D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

【業況・採算:好転-悪化】、【売上:増加-減少】

※LOBO調査ホームページ > <http://www.jcci.or.jp/lobo/lobo.html>



写真で審査!私の雪だるまコンテスト2014

当会議所では、「津軽くろいし みんなの雪だるま」づくり運動の一層の進展を図り、黒石市民による自慢の雪だるまを多くの方々にご覧いただくために、「私の雪だるまコンテスト」を開催しています。ふるってご応募ください!

■応募資格: 黒石市在住の方(黒石市内に通勤・通学する方を含む)

■被写体: 2014年自作雪だるまの写真に限りです。

■応募条件: ●カラープリント(デジカメプリント可)。●大きさは、キャビネ(2L)サイズ。●ボジの出品は不可。●1人何点でも応募できますが、同じ雪だるまの複数応募は不可。

■応募締切: 平成26年2月28日(金)

■各賞: ●黒石市長賞 ●黒石商工会議所会頭賞 他

■発表: 平成26年3月6日(木)



※応募写真は、雪だるまの記録として当会議所で保存させていただきます。また、必要に応じて印刷物等に利用する場合がありますのでご了承ください。

●お問い合わせ 黒石商工会議所 私の雪だるまコンテスト係 TEL:52-4316

記事:小野智恵

黒石商工会議所・各種相談窓口のご案内

事業資金や創業資金などの相談を希望される方は、当会議所の相談窓口をご利用ください。

■青森県信用保証協会 経営支援相談窓口

開催日: 毎月第1木曜日 10:00~12:00

場所: 黒石商工会議所 相談室

■日本政策金融公庫 定例相談窓口

開催日: 毎月第1木曜日 13:00~15:00

場所: 黒石商工会議所 相談室

■消費税転嫁対策相談窓口

開催日: 月~金曜日 8:30~16:30(祝日を除く)

場所: 黒石商工会議所内

事前にご予約をお願いします。相談状況によってお待ちいただく場合がありますのでご了承ください。

●お問い合わせ 黒石商工会議所 相談課 TEL:52-4316

記事:小野智恵



国税庁「26年1月から記帳帳簿等の保存制度の対象者が拡大されます。」

個人の白色申告者のうち前々年分あるいは前年分の事業所得、不動産所得または山林所得の金額の合計額が300万円を超える方に必要とされていた記帳と帳簿書類の保存が、平成26年1月からは、これらの所得を生ずべき業務を行う全ての方(所得税及び復興特別所得税の申告の必要がない方を含みます。)について必要となります。記帳・帳簿等の保存制度や記帳の内容の詳細は、国税庁ホームページに掲載されていますのでご覧ください。

詳しくは、黒石税務署または当会議所へお尋ねください。

●お問い合わせ 黒石税務署 TEL:52-4111

黒石商工会議所 中小企業相談所 TEL:52-4316

記事:小野智恵

青森県司法書士会「無料相談会」のご案内

市民の皆さまのお困りごとと解消のためにお役立て下さい!

■青森県司法書士会総合相談センター【定例相談(要予約)】

予約受付: 平日10:00~16:00 TEL:0120-940-230

開催日: 毎月第1・3金曜日 15:00~18:00

場所: 青森県司法書士会館(青森市長島3-5-16)

相談料: 初回無料(原則50分前後)

その他「県内各地の登録司法書士事務所での相談」や「野辺地司法書士相談センター」の開催もありますのでお気軽にお問い合わせください。

●お問い合わせ 青森県司法書士会 TEL:017-776-8398

記事:小野智恵